

障害者福祉の体験

担当教員名 朝比奈 茂／宮川 路子

1 コースの概要

日 程	2014年8月7日～22日
場 所	群馬県安中市 「ゆきわりそう」の山荘内にて
参加人数	10人

2 コースの目的

障害者と合宿を通じて寝食および行動をともにすることで、人間としての生き方を実感する。また福祉活動における仕事内容、それに携わっている方々と意見交換をすることで、現在の福祉環境について理解を深める。

3 事前学習

NPO 法人「ゆきわりそう」より担当者を大学に招いて、組織の基軸となっている「ゆきわりそう」の活動内容や障害者の身体的および精神的特徴について、口頭および DVD により説明をうけ、理解を深めた。また開講するプログラムの説明をうけ、各自の興味や関心に沿って参加プログラムを決定した。後日、「ゆきわりそう」のプログラム責任者と連絡をとり、各自練馬区にあるゆきわりそうの本部施設に出向き、事前打ち合わせを行い、出された課題を各自で学習し、当日に備えた。

4 行程

8月7～9日

- ・ソフトクリーム
対象者：知的障害者

8月9～11日

- ・マラソン1
対象者：知的障害者

8月10～12日

- ・ハーフマラソン
対象者：重度知的障害者

8月12～15日

- ・マラソン2
対象者：知的障害者

8月20～22日

- ・クレヨン
対象者：知的障害者

5 事後学習

事前学習同様に「ゆきわりそう」から担当者をお招きして事後学習会を開催した。当日は、課題である「実施報告書」および「フィールドノート：日誌」を持参し、各々が行った活動を共有した（情報の共有化）。ディスカッションの内容、および方法は、学生を2つのグループに分け、リーダーを中心に以下の項目に沿って行った。

1. 実習前の障害者に対するイメージなどについて
2. 実習直後に感じたことについて
3. 実習を終えて数か月経った今、感じることに
ついて

グループ内で共有化をはかった後に、「FS を通じて学んだこと、考えたこと、これから行うこと」をテーマに、グループごと発表を行った。最後に担当教員およびゆきわりそうの担当者より講評を述べ事後学習会を終了した。

6 雑感

本フィールドスタディは、学部創設以来、現在まで行われてきたロングラン・プログラムであり、人間について考えることの出来るプログラムの一つである。

人間の成長段階における最終章となる大学生。この時期に、同じ人間であるのにあまりにも違う生き方をしている障害者の方々の生き方を、寝食をともにする合宿形式で過ごすことで、人間について深く考えることが出来るプログラムであると感じている。普段我々は、自分の意志によって行動を決定し、日常自由に生活することが出来る。当たり前のようにあるが、そうでない人もいる。参加した学生たちは多くのことを感じ学び得た FS であったと感じている。



障害者福祉体験を行いました